

令和7年度第1回茨城県障害者施策推進協議会 議事概要

【開催概要】

- 1 日 時 令和7年11月10日（月） 13：55～14：55
2 場 所 茨城県庁 901会議室
3 出席委員 20名
4 議 事
第3期新しいばらき障害者プランの進捗状況について

【議事結果（主な意見等）】

- 就労移行支援の一般就労率が目標に対し大幅に未達成と聞いたが、実績は改善傾向なのか、県の受け止めを確認したい。また、利用者の多くが一般就労に至らないとのことだが、終了後の進路はどうなっているか。
→ 休止事業所を含めて算出しているため、低く出ている可能性がある。なお、利用終了後の進路については、把握できていないため、今後検討する。
- グループホームは軽度者向けが中心で、重度の知的・身体障害のある方の受け入れ先が乏しく、保護者の高齢化も進む中で将来への不安が強い。数値だけでなく、現状を把握して施策を検討いただきたい。また、福祉現場では人手不足が続いているおり、受け入れ体制の整備には人員確保が最大の課題。
- 入所定員の減については、どう検証しているのか。定員の減分、地域での受け入れ体制ができたのか、それとも単純に枠を減らしたのか。
→ 今回施設側に詳細まで聞き取りしていないため、今後検証していく。
- 医療型短期入所については、実績が少ないため充足しているように見えるかもしれないが、地域の偏りもあり、使いたくても使えない状況である。
- 放課後等デイサービスは児童発達支援の倍程度の数の事業所があるが、放課後等デイサービスに通う児童は、本来児童発達支援の利用も必要だったのではないか。より早期からの療育が必要と考える。
- 地域生活支援拠点はあればいいのではなく、機能しないと意味がない。県において事例把握や評価を行えるよう検討いただきたい。
- 福祉施設入所者の地域生活への移行について、定員を削減することが成功とされるのが疑問。グループホームは受け皿になれない一方で、入所施設の役割はますます増えていく。実際に入っている人の意向も把握した上で、計画に落とし込むのが良いのではないか。
- 基幹相談支援センターの設置について、残りの市町村で設置ができない理由はなにか。市町村へのバックアップや支援をお願いしたい。
→ 相談支援専門員の確保の難しさや、立ち上げや運営方法についての不安などから、小規模自治体で設置が進まない傾向にある。
- グループホームのサービス見込量は、全国展開の企業の参入などの背景も加味した上で算出しているのか。
→ 基本的にサービス見込量は、市町村において需要を見込んだものを積み上げて算出している。全国展開の企業の参入などは需要と供給の供給部分であるため、見込量には含まれていない。